



第21回全国高校生英語ディベート大会 in 東京 実施要項

The 21st All Japan High School English Debate Tournament in Tokyo

1. 主 催 一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)
理事長 下山田 芳子 (茨城県立勝田中等教育学校 校長)
2. 主 管 第21回全国高校生英語ディベート大会 運営委員会
3. 特別協賛 株式会社ベネッセコーポレーション
4. 年間協賛 中央大学
京都外国語大学・京都外国語短期大学
早稲田大学
5. 後 援 文部科学省 アメリカ合衆国大使館 全国英語教育研究団体連合会
公益社団法人 全国高等学校文化連盟 特定非営利活動法人 日本ディベート協会
特定非営利活動法人 全国教室ディベート連盟 東京都教育委員会
(以上全て申請中)
6. 期 日 2026年12月19日(土)、20日(日)
7. 会 場 中央大学 多摩キャンパス 〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1
8. 大会運営 第21回全国高校生英語ディベート大会 運営委員会
委員長 山根 雅広 (品川女子学院 専任教諭)
9. 審 査 一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟 (HEnDA)
理事・審判長 矢野 善郎 (中央大学 教授)
10. 参加条件
 - ・学校教育法第1条に定める高等学校在学者または高等専門学校の3年まで、または中等教育学校の4年から6年に在学の生徒で本連盟の「メイク・フレンズ憲章」を厳守できる生徒。
 - ・英語のネイティブスピーカーは不可。
 - ・以下の海外生活経験者等の条件に該当する者はチームに2名以内：
 - (1)英語を第1言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒(就学前の滞在は不問)
 - (2)英語を第2言語とする国の出身である生徒(就学前の滞在は不問)
 - (3)家庭で常用的に英語を使っている生徒
11. チーム構成 1校1チーム。選手登録は4名から6名まで。
原則として登録選手は、全員その出場校に在学する者でなくてはならない。各試合には4名が出場(試合ごとにメンバーの入れ替えが可能)。
特例措置1：合同チーム
同じ都道府県に所在する2つの学校が、ともに選手不足の場合、合同チームを組んで都道府県大会等および全国大会に応募することを認める(ただし合同チームとして全国大会に応募する際には、都道府県大会等出場時点のチーム構成を変更することはできない。また3校以上による合同チームは認められない)。
特例措置2：分校(広域通信制高校の各キャンパスなども含む)
同一学校であっても、遠隔地または交通不便などの理由で、本校と同一チームとして練習できない分校(またはそれに準ずる組織)は、本連盟の承認を得れば、それぞれ単独で別チームとして参加することができる。
※申請書は、連盟HPからダウンロードし、8月末日までに事務局に申請すること

12. ジャッジ派遣義務

各参加校・合同チームは、必ず1校（合同チームの場合はチームに）1名、資格を満たしたジャッジの派遣が義務づけられる。

（派遣費用等は各校負担。顧問の兼任は可能）

原則として派遣ジャッジはA)～D)のすべてを満たしている必要がある。

条件A)ディベート・ジャッジ経験——過去にHEnDA 全国大会や県大会などにてジャッジの実績があり、HEnDA ルールに基づいて試合の勝敗の判定を下す能力があり、かつ英語でのコメントも可能である。

条件B)HEnDA ルールの把握——HEnDA ルールブックを十分に熟読し、HEnDA ルールで開催されるディベート方式に慣れ、反則行為や試合運営の詳細などについても十分に把握できている。

条件C)論題についての理解——今年度HEnDA 論題の定義を十分に理解しており、同じ論題で行われたディベートを県大会や練習会などでの観戦またはジャッジの経験がある。

条件D)年齢・身分——原則として大学を卒業している社会人である。ただし大学生については、A)～C)の3条件を満たし、しかも大学でディベート経験のある3年生以上についてのみ、特別にジャッジ資格を認める。

※12月6日(日)10:00から行われるルール等説明会 Online に必ず参加のこと。

13. 対戦方法

予選6試合の結果に基づき、上位4チームが決勝トーナメントへ進む。

予選各試合はジャッジ2名が審査。決勝トーナメントは、3名または5名が審査。

14. 論 題

Resolved: That the Japanese government should eliminate all tariffs on imported rice.

日本政府は輸入米の関税を撤廃すべきである。是か非か。

※論題の文言は変更の可能性あり。付記事項等、詳細については連盟HPを参照のこと。

15. 日 程

12/19(土)	8:30～ 受付	12/20(日)	8:00～ 集合・受付
	9:00～ ジャッジ点呼		8:30～ 予選第5試合
	9:30～ 開会式		10:20～ 予選第6試合
	10:30～ 予選第1試合開始 (昼食)		(昼食)
	12:30～ 予選第2試合		12:00～ 予選結果発表
	14:45～ 予選第3試合		12:30～ 準決勝
	17:00～ 予選第4試合		14:00～ 決勝
	18:00～ 交流会 (引率者会議同時開催)		15:30～ 表彰式・閉会式
	19:00 解散予定		17:00 解散予定

16. 競技規則

競技は「大会ルール」「ジャッジ基準」に基づいて行います。

「大会ルール」「ジャッジ基準」は連盟HPを参照。

17. 大会参加申し込み

連盟HP上の申し込みフォームに必要なデータを入力し、お申し込みください。

応募期間は10月1日(木)から11月11日(水)まで

18. 全国大会出場校選抜基準

出場校の最大総数は原則64とする。

原則として都道府県大会の上位校を選抜する。ただし、諸事情により都道府県大会を開けない県については、HEnDA 主催で合同予選会を行い特例として参加を認める。また連盟の認定する広域大会の優勝校には出場資格を与える。

選抜基準の詳細は連盟HP参照。

19. 登録費 1 チーム 30,000 円
大会参加費 1 人 2,000 円 選手・顧問・派遣ジャッジ・選手以外の参加生徒
※参加費を支払った方に交流会への参加・大会冊子・バッジの提供
20. ホテル・弁当等の予約 近畿日本ツーリスト株式会社 東京私学教育旅行支店を通して申し込むことを推奨します
詳細は申し込みフォーム等で通知
21. 表彰 1 位に優勝旗、文部科学大臣賞（申請中）、アメリカ合衆国大使館賞（申請中）、国際大会支援金
1 位・2 位・3 位（2 校）・予選 5 位～8 位に賞状と副賞
最優秀ディベーター 1 名に文部科学大臣賞（申請中）と賞状と副賞
優秀ディベーター 5 名に賞状と副賞
立論/アタック/ディフェンス/サマリーの各最優秀者 1 名、優秀者 3 名程度に賞状

その他特別賞
選手全員に出場証明書と記念品
22. 試合運営補助員（タイムキーパー、チェアパーソン等）公募
全国大会出場権を獲得できなかった学校や出場校の非登録メンバーから、試合運営補助員を公募する。ただし教員引率があり、本連盟の「メイク・フレンズ憲章」を厳守できる高校に限る（試合運営補助員の旅費、食事代等も各校負担、大会参加費不要、交流会への参加・大会冊子・バッジの提供）。応募が多い場合は各都道府県大会の上位校から決定する。なお公募に関する締め切りは全国大会エントリーの締め切りに準ずる。

■問い合わせ・連絡先
一般社団法人 全国高校英語ディベート連盟（HENDA）
理事・事務局長 小林 隆徳
henda-kobayashi@peach.plala.or.jp
連盟 HP (<https://henda.global/>) まで

資料

■試合形式

発言者	役割と内容	時間
A 1	① 肯定側立論 (Advantage は 2 点まで出せる)	4 分
	準備時間	1 分
N 4→A 1	② 否定側質疑 (否定側 N 4 からの質問に、肯定側 A 1 が答える)	2 分
N 1	③ 否定側立論 (Disadvantage は 2 点まで出せる)	4 分
	準備時間	1 分
A 4→N 1	④ 肯定側質疑 (肯定側 A 4 からの質問に、否定側 N 1 が答える)	2 分
	準備時間	2 分
N 2	⑤ 否定側アタック (肯定側の立論のみに対して)	3 分
A 3→N 2	⑥ 否定側アタックへの質問 (肯定側 A 3 からの質問に否定側 N 2 が答える)	2 分
A 2	⑦ 肯定側アタック (否定側の立論のみに対して)	3 分
N 3→A 2	⑧ 肯定側アタックへの質問 (肯定側 N 3 からの質問に肯定側 A 2 が答える)	2 分
	準備時間	2 分
A 3	⑨ 肯定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3 分
N 3	⑩ 否定側ディフェンス (アタックを受けた立論を再構築する)	3 分
	準備時間	2 分
A 4	⑪ 肯定側サマリー (双方の議論を比較し総括する)	3 分
N 4	⑫ 否定側サマリー (双方の議論を比較し総括する)	3 分

計 42 分

■過去の大会の参加状況

大会	年度	参加都道府県	参加学校数	参加選手数	県予選参加校数	開催場所
プレ大会	2005	11 都県	26 校	160 名		岐阜大学 (岐阜県)
第 1 回	2006	17 都府県	38 校	208 名		岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 2 回	2007	22 都道府県	50 校	257 名		名古屋学院大学 (愛知県)
第 3 回	2008	24 都道府県	62 校	276 名		岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 4 回	2009	29 都道府県	64 校	295 名		東京国際大学 (埼玉県)
第 5 回	2010	29 都道府県	64 校	321 名		岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 6 回	2011	28 都道府県	64 校	357 名	181 校	金沢学院大学 (石川県)
第 7 回	2012	33 都道府県	64 校	345 名	226 校	千葉県立幕張総合高等学校 (千葉県)
第 8 回	2013	34 都道府県	64 校	369 名	242 校	松本大学 (長野県)
第 9 回	2014	38 都道府県	64 校	361 名	283 校	静岡文化芸術大学 (静岡県)
第 10 回	2015	36 都道府県	66 校 (第10 回記念)	380 名	280 校	岐阜聖徳学園大学 (岐阜県)
第 11 回	2016	37 都道県	64 校	367 名	309 校	常磐大学高等学校 (茨城県)
第 12 回	2017	37 都道県	64 校	369 名	312 校	東京国際大学 (埼玉県)
第 13 回	2018	40 都道府県	64 校	374 名	334 校	福井工業大学 (福井県)
第 14 回	2019	39 都道県	64 校	366 名	348 校	共愛学園前橋国際大学・中高 (群馬県)
第 15 回	2020	40 都道府県	64 校	370 名	282 校	Online (埼玉県)
第 16 回	2021	43 都道府県	64 校	367 名	275 校	Online (埼玉県)
第 17 回	2022	43 都道府県	64 校	366 名	266 校	Online (埼玉県)
第 18 回	2023	40 都道府県	64 校	364 名	266 校	作新学院大学 (栃木県)
第 19 回	2024	40 都道府県	64 校	374 名	270 校	岡山大学 (岡山県)
第 20 回	2025	42 都道府県	68 校 (第20 回記念)	385 名	259 校	東京国際大学 (埼玉県)

■現在までの HEnDA 方式都道府県大会等の開催回数(2025 年 12 月現在、 は 2025 年度全国大会不出場)

北海道	16 回	東京	13 回	滋賀	18 回	香川	
青森		神奈川	17 回	京都	10 回	愛媛	14 回
岩手	13 回	新潟	13 回	大阪	14 回	高知	24 回
宮城	4 回	富山	14 回	兵庫	20 回	福岡	24 回
秋田		石川	20 回	奈良	2 回	佐賀	20 回
山形	11 回	福井	18 回	和歌山	14 回	長崎	20 回
福島	10 回	山梨	9 回	鳥取		大分	21 回
茨城	15 回	長野	33 回	島根	13 回	熊本	21 回
栃木	17 回	岐阜	24 回	岡山	14 回	宮崎	23 回
群馬	13 回	静岡	20 回	広島	17 回	鹿児島	28 回
埼玉	20 回	愛知	17 回	山口	11 回	沖縄	25 回
千葉	17 回	三重	11 回	徳島	7 回		

四国地区大会 16 回、九州地区大会 20 回

HEnDA 認定広域大会

東海ブロック大会 10 回

Make Friends Cup 9 回

Make Friends Cup in Fukui 7 回

中国ブロック大会 4 回

Make Friends Edge 1 回

東北ブロック大会 1 回

関西高校生英語ディベート大会 10 回

甲信越ブロック大会 9 回

南関東ブロック大会 5 回

HEnDA Friends Cup 1 回

Make Friends West 1 回